

参考資料

- * 『愛知県史 別編 [10]』
愛知県史編さん委員会／編集 愛知県 2015
- * 『國史大辭典』 1～15 吉川弘文館
1979～1997
- * 『國書解題』上、下 佐村八郎／著 増訂第3版
臨川書店 1976
- * 『国書人名辞典』第1巻～第5巻
堤精二／[ほか]編 岩波書店 1993～1999
- * 『素晴らしい装束の世界 いまに生きる千年のファッション』 八条忠基／著 誠文堂新光社 2005
- * 『泉涌寺靈宝拝見図・嵯峨靈仏開帳志 猿猴庵の本』
[高力猿猴庵／著] 名古屋市博物館 2006
- * 『日本古典文学大辞典』 第1巻～第8巻 岩波書店
1983
- * 『明治・大正図案集の研究—近代にいかされた江戸のデザイン』 樋田豊次郎／編 国書刊行会 2004
- * 『有職故実』 上、下 石村貞吉／[著]
講談社 1987
- * 『有識（ゆうしょく）故実図典 服装と故実』
鈴木敬三／著 吉川弘文館 1995
- * 国立公文書館HP (<http://www.archives.go.jp>)
- * 風俗博物館HP (<http://www.iz2.or2.jp>)

鶴舞中央図書館×

名古屋市博物館企画展「採録 名古屋の農生活」

描かれた衣服展

～名古屋・愛知の書物を中心に～

会期:1月21日(土)～3月16日(木)

場所:鶴舞中央図書館

2階展示ケース

名古屋市鶴舞中央図書館 奉仕課奉仕第二係

2017年1月発行

名古屋市博物館の企画展「採録 名古屋の衣生活」（会期：2017年2月11日～3月26日）では、昭和、大正といった過去の名古屋の生活において、衣服がどのように着用されていたのか、どのように作られていたかなど、実際に聞いて集めた話や収集品をもとに名古屋の衣生活が紹介されており、現在とは異なる実態、感覚を知ることができます。

このように衣服の形態や使用方法は移り変わっていくものですが、千年以上もの間、多くの人たちの手によって過去の姿が伝えられてきた衣服があります。これが一般に「装束」と呼ばれる「公私の生活慣行につちかわれて形成した、地位・職掌・年齢相応のそれぞれの衣服・装身具の集合体や、季節の行事に相応する宮殿内部の室礼」（『有職故実大辞典』）であり、装束は有職故実の一部として、重視されてきました。

尾張藩士で紀典学（きてんがく）者として有名な河村秀穎（かわむらひでかい）、秀根（ひでね）は、有職故実（ゆうそくこじつ）に関する研究も熱心に行っており、公家や武家の装束に関する絵入りの記録を残しています。当館の所蔵する特別集書「河村文庫」を始めとする尾張に伝えられた装束に関する書物のうち、絵図の美しいものを中心にご紹介し、尾張名古屋での衣服・装束に関する先人の研究をひもときます。

いつぎぬず

五 衣図(河イ-39)

ないしのすけ

寛延二年河村秀根編、明和三年河村益根画。典侍の装束およびその文様を図示した書物。



しじゅうにしなのきそいものだん

四十二品競物談(河シ-67)

奈良絵本。奈良の帝の御世、東宮御所において「きさらぎ中の六日」に催された歌合が舞台で、「月の夜」と「雪の朝」など、二つのものの優劣を歌で定める。



ぶけしょうぞくちやくようず

武家装束着用図(別210-9)

まつおかときかた

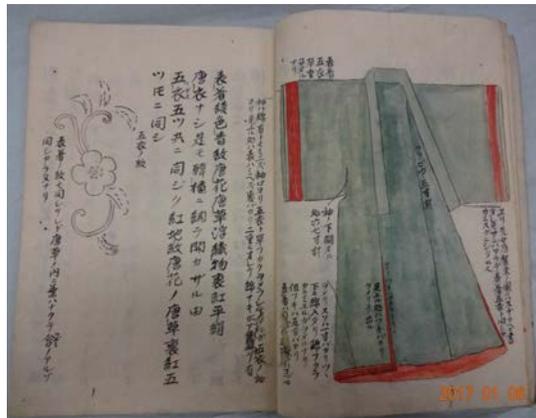
有職故実家の松岡辰方（1764-1840）が伊勢貞春の説や旧記を参考にして作成した。前巻の『装束着用図』に洩れた武家の装束の着用図を示して注記を加えている。



せんにゆうじしよぞうふくおんず

泉涌寺所蔵服御図(河セ-76)

皇室唯一の菩提寺である京都東山泉涌寺の出開帳で披露された霊宝を河村秀根が書き写したもの。



展示資料一覧

かざりしょう

飾抄(装束飾抄)(河カ-53)

つちみかどみちかた

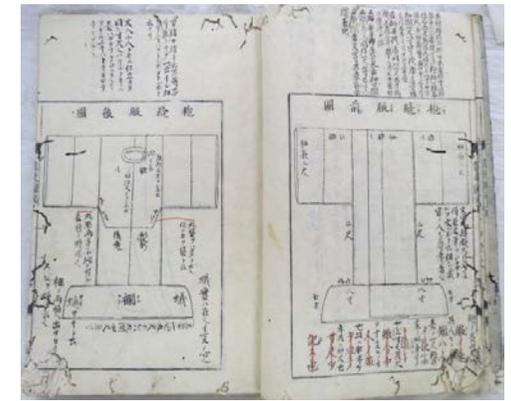
鎌倉時代の故実書。土御門通方編著。平安時代後期から鎌倉時代初期の恒例・臨時の行事の装束と車、鞍などについて、実例を引用して解説した書物。項目によっては「通方案」を付記している。



しょうぞくずしき

装束図式(河シ-120)

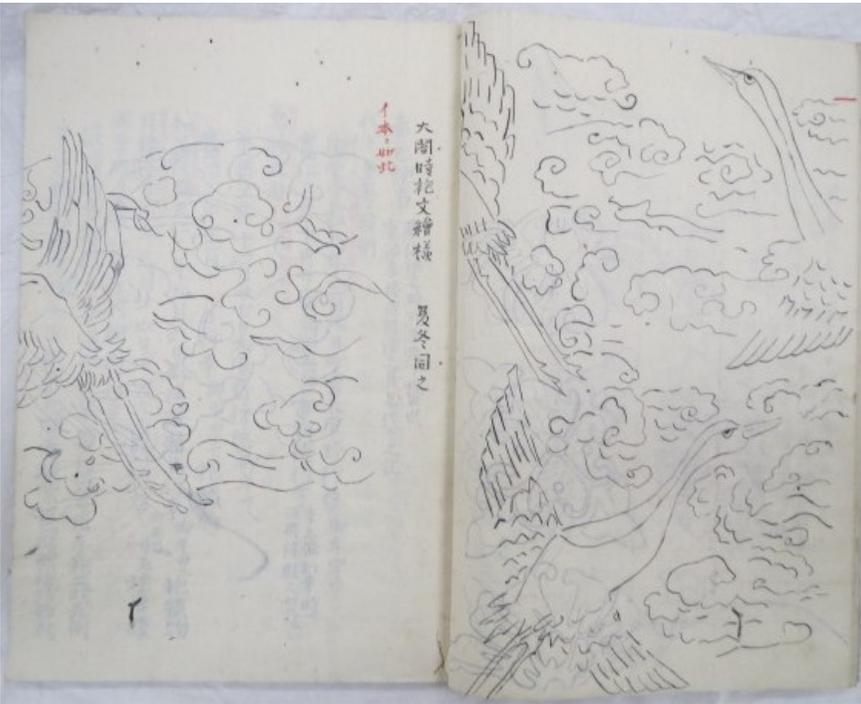
御冠、袍、礼服から笏、扇、劍、弓矢、狩衣、奴袴など、装束・装身具の簡単な解説と図を収める。



ごしょうねんいんどのしょうぞくしょう

後照念院殿装束鈔(河コ-80)

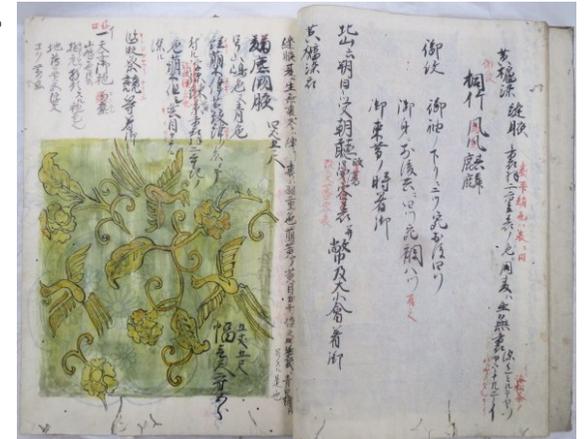
鷹司冬平著。鎌倉後期の有職故実書で、河村秀根の手による写本。鎌倉後期の冠・束帯・袍文・剣・玉帯・魚袋などについて、先例を引用しつつ図説したもの。



しょうぞくききがき ふ：いもんず

装束聞書(附：異紋図)(河シ-113)

元禄二年(1689)河村秀辰自筆の書物。冠、纓、袍、束帯、狩衣など四十三項目について説明しており、装束の図や地紋の絵が多い。



ぶけねんちゆうぎょうじ

武家年中行事(市16-100)

竹村通央著。古書を拠所として武家の年中行事の古来の姿を探る書。

